

| | | | | | | |
|-------------|--|------|-----------------|--|--|--|
| 授業科目名 | 演技論 | 担当教員 | 山内 健司 木田 真理子 | | | |
| 必修の区分 | 選択 | | | | | |
| 単位数 | 2 単位 | | | | | |
| 授業の方法 | 講義 | | | | | |
| 開講年次 | 2年 第3クオーター | | | | | |
| 講義内容 | 演技をめぐる言葉と向き合う。創作現場で、表現者個々のうちに、どんな言葉があるのかを知り、それらの言葉が、それぞれの歴史や文化をふまえた豊かさをもつ、多様なものであることを知る。表現者のうちにある言葉、観客・批評家・研究者によって語られる言葉、異ジャンルの舞台で語られる言葉、異文化の舞台で語られる言葉、過去の時代に語られた言葉、などに触れ、それらの言葉に触発され、自身の言葉を鍛え、敬意をもって他者と関わっていく第一歩とする。対話における他者への敬意を、演技論の視座から学ぶ。 | | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 演技をめぐる言葉の、豊かさと多様性を述べることができる。 演技論について、他者と対話することができる。 演技をめぐる言葉を通して、他者に敬意をもつことができる。 | | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 戯曲と演技の間にある言葉（山内①） 日本の戯曲と演技論をセットで読む1：現代口語演劇の取り組み（山内②） 翻訳された言葉と演技：チエーホフ（山内③） 日本の戯曲と演技論をセットで読む2：日本戦後演劇史より、杉村春子（山内④） 日本の戯曲と演技論をセットで読む3：日本戦後演劇史より、安部公房ス タジオ、篠崎メソッド（山内⑤） 日本の戯曲と演技論をセットで読む4：詩の言葉と身体（山内⑥） 海外の演技論：メソッド演技（山内⑦） 海外の演技論：フランス近代演劇（山内⑧） 演技についての言葉と演技者（山内⑨） ダンスと演技1：演技と演じることについて。抽象的なダンス作品（木田①） ダンスと演技2：ストーリー性のあるダンス作品（木田②） ダンスと演技3：舞台にその人自身が現れているダンス作品（木田③） | | | | | |
| 事前・事後 学習 | <ul style="list-style-type: none"> 講義中で部分的に取り扱う戯曲、演劇論、演技論のテキストについては、その全体像にふれるよう努めること | | | | | |
| テキスト | 各講義中に配布する。 | | | | | |

| | |
|----------------|--|
| 参考文献 | <ul style="list-style-type: none"> 各回の実習において参考資料を配付する。 参考文献等を適宜紹介する。 |
| 成績評価の基準 | <ul style="list-style-type: none"> 授業時間内での発言・姿勢 (50%) レポート (50%) |
| 履修上の注意 履修要件 | |
| 実践的教育 | 芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。 |
| 備考欄 | 定員超過の場合は、抽選などで選考する場合があります。 |